

# キヤノンマーケティングジャパン株式会社 2024年度第1四半期 決算説明

2024年4月23日  
取締役常務執行役員 蛭川 初巳

- 本資料では、億円単位未満の端数は四捨五入により表示しております。
- 本資料で記述されている業績予想及び将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

皆さま、こんにちは。蛭川でございます。

本日は大変お忙しい中、ご参加頂き、誠に有り難うございます。

■ 決算のポイント	P.3
■ 業績サマリー	P.4
■ 営業利益分析	P.5
■ 業績 セグメント概要	P.6
■ 業績 セグメント情報	P.7～10
■ セグメント別 製品・サービス売上	P.11
■ 業績予想サマリー	P.12
■ 業績予想 セグメント概要	P.13～15
■ 業績予想 セグメント情報	P.16～17
■ 主要製品売上・台数	P.18
■ 株式会社プリマジェストのグループ入りについて	P.19
■ 参考資料	P.21～35

それでは、2024年第1四半期決算と業績予想についてご説明致します。

このアジェンダに沿って説明を進めてまいります。

## 2024年12月期 第1四半期 業績概要

- ・前年同期比 増収・減益。
- ・ITソリューションは対前年+9%と高い成長を維持。
- ・売上・利益ともに計画以上に進捗。

## 2024年12月期 業績見通し

- ・株式会社プリマジェストのグループ入りの影響を反映し、売上を150億円上方修正。
- ・営業利益は、株式会社プリマジェストのM&Aに係るのれんの償却費の発生等のマイナスの影響があるものの、計画以上の進捗を踏まえ、前回計画から修正なし。

## トピックス

- ・業種に特化したBPOサービスに強みを持つ株式会社プリマジェストがグループ入り。

3ページ目は、決算のポイントです。

1Qは、対前年で増収、減益となりました。  
ITソリューション事業は引き続き好調に推移しており、対前年プラス9%と高い成長を維持することができました。  
この結果、売上・利益ともに計画以上の進捗となっています。

年間の見通しについては、  
プリマジェストのグループ入りの影響を反映し、売上を150億円上方修正しました。

営業利益については、プリマジェストのM&Aに係るのれんの償却費の発生等の影響が出る見通しですが、  
1QのITソリューションを中心とした計画以上の進捗状況を踏まえて、前回計画から修正せず、  
4期連続の最高益の更新を目指します。

プリマジェストのM&Aの目的や事業の概要については、後ほどご説明をいたします。

## 業績サマリー 第1四半期(1月～3月)

(単位：億円)

	2023年 1Q	2024年 1Q	前年同期比較	
			金額	率
売上高	1,548	1,572	+24	+2%
	(33.7%)	(32.6%)	(Δ1.1%)	
売上総利益	522	513	Δ9	Δ2%
	(9.9%)	(8.8%)	(Δ1.1%)	
営業利益	153	138	Δ15	Δ10%
	(10.0%)	(8.9%)	(Δ1.1%)	
経常利益	154	140	Δ15	Δ9%
	(6.7%)	(6.1%)	(Δ0.7%)	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	105	95	Δ9	Δ9%

4

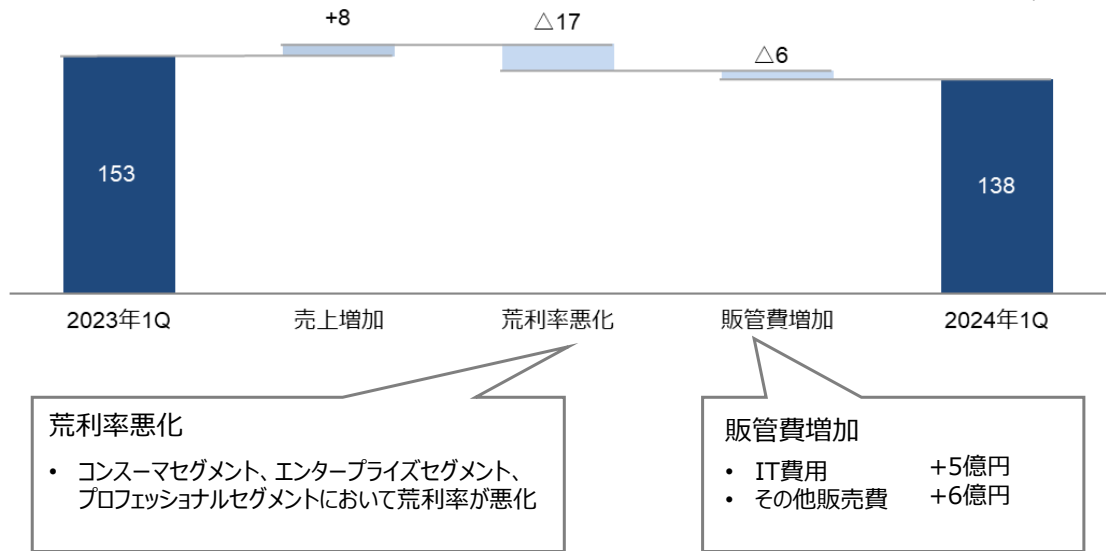
4ページ目は、1Qの業績サマリーです。  
先ほどお伝えした通り、1Qは、対前年で増収、減益となりました。

売上は、主にコンシューマセグメントが減収となりましたが、ITソリューション事業が引き続き順調に推移したことや昨年10月にグループ入りしたTCSの売上が加わったこと等により、対前年2%増の1,572億円となりました。

営業利益は、コンシューマ製品の売上減少に伴う荒利の減少や販管費の増加等により、対前年15億円減少の138億円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、対前年9億円減少の95億円となりました。

(単位：億円)



5

5ページ目は、1Qの営業利益分析です。

売上の増加に伴い荒利が8億円増加しております。

荒利率については、プロフェッショナルセグメントで荒利率の高い産業機器の売上が減少したことや、エンタープライズセグメントでBPOの大型案件の剥落があったこと等により悪化し、17億円減少しております。

販管費については、基幹システムの刷新等によるIT費用の増加や、プリマジェストのグループ入りに伴う費用等により「その他販売費」が増加したこと等により、6億円増加しております。

なお、1Qの販管費の詳細は23ページの「販管費の内訳」をご参照ください。

皆さまによりご理解頂けるように、「販管費の内訳」の項目を今回から一部変更しております。

## 業績セグメント概要 第1四半期(1月～3月)

(単位：億円)

	2023年 1Q		2024年 1Q		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	326	31	301	21	△25	△10
エンタープライズ	547	59	590	55	+44	△4
エリア	598	47	598	52	△1	+5
プロフェッショナル	117	19	140	17	+22	△2
その他	△40	△4	△57	△8	△17	△4
合 計	1,548	153	1,572	138	+24	△15

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

6ページ目は、1Qのセグメント別の実績概要です。

売上は、コンシューマセグメント、エリアセグメントで減収となりましたが、エンタープライズセグメント、プロフェッショナルセグメントで増収となりました。

営業利益はコンシューマセグメント、エンタープライズセグメント、プロフェッショナルセグメントで減益となりましたが、エリアセグメントで増益となりました。

- ✓ 売上高は、レンズ交換式デジタルカメラやインクジェットプリンター等の減少により、減収
- ✓ 営業利益は、売上の減少に伴う荒利の減少により、減益

(単位：億円)

	1Q実績		
	2023年	2024年	対前年
売上高	326	301	△8%
営業利益	31	21	△33%
利益率	9.6%	7.0%	△2.6%

■ コンスーマ製品（対前年伸び率）

		1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	年間
レンズ交換式デジタルカメラ	(台数)	△31%	-	-	-	-
インクジェットプリンター	(台数)	△8%	-	-	-	-
インクジェットプリンターカートリッジ	(金額)	△9%	-	-	-	-

7

続いて7ページ目からは、セグメント別の実績をご説明致します。

まずはコンスーマセグメントのご説明です。

1Qの売上は、レンズ交換式デジタルカメラやインクジェットプリンター等の減少により、対前年8%減の301億円となりました。  
 営業利益は、売上の減少に伴う荒利の減少により、対前年10億円減少の21億円となりました。

（レンズ交換式デジタルカメラ）

レンズ交換式デジタルカメラについては、前年同期に新製品発売による売上の増加があり、その剥落により、販売台数が減少し、対前年マイナス31%となりました。  
 交換レンズについては、カメラ本体の販売減少に伴い、売上は減少しました。

（インクジェットプリンター）

インクジェットプリンターについては、市場の縮小等により、台数は対前年マイナス8%となりました。  
 インクカートリッジについては、プリントボリュームの減少等により、売上は減少しました。

（ITプロダクト）

ITプロダクトについては、高性能PCやPC周辺機器の販売が引き続き増加し、売上は大幅に増加しました。

- ✓ 売上高は、キヤノン製品他が堅調に推移したことに加え、ITソリューションが順調に推移したことにより、増収
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴い荒利が増加したものの、BPOの大型案件剥落に伴う荒利率の悪化や、TCS株式会社のグループ入りに伴うのれんの償却費の発生による販管費の増加により、減益

	1Q実績		
	2023年	2024年	対前年
キヤノン製品他	147	151	+2%
ITソリューション	399	439	+10%
売上高計	547	590	+8%
営業利益	59	55	△6%
利益率	10.8%	9.4%	△1.4%

(単位：億円)

■ (ご参考)  
主要関係会社実績

	1Q実績		増減	
	2023年	2024年	金額	率
売上高	315	332	+17	+5%
営業利益	39	41	+1	+3%

キヤノンITソリューションズ受注高・受注残高 (対前年伸び率)

1Q実績	
受注高	+1%
受注残高	△7%

データセンター事業以外の受注高は四半期での過去最高を更新

データセンター事業以外の1Qの受注残高は10%以上の増加

8

8ページ目は、エンタープライズセグメントのご説明です。

1Qの売上は、「キヤノン製品他」が堅調に推移したことに加え、「ITソリューション」が順調に推移したことにより、対前年8%増の590億円となりました。

営業利益は、売上増加に伴い荒利が増加したものの、BPOの大型案件剥落に伴う荒利率の悪化や、TCSのグループ入りに伴うのれんの償却費の発生等による販管費の増加により、対前年4億円減少の55億円となりました。

(キヤノン製品他)

「キヤノン製品他」については、複数の大型案件があったことにより、オフィスMFP、レーザープリンターの台数は大幅に増加しました。オフィスMFPの保守サービスについては、オフィスにおけるプリントボリュームが減少したことにより、売上は微減となりました。レーザープリンターカートリッジについては、前年同期に価格改定を見据えた駆け込み需要があり、その剥落により、売上は減少しました。これらの結果、「キヤノン製品他」全体の売上は増加しました。

(ITソリューション)

ITソリューションについては、金融業向け及び流通業向けのSI案件が順調に推移したことや、TCSのグループ入り等により、売上は増加しました。これらの結果、「ITソリューション」全体の売上は、対前年プラス10%となりました。

【キヤノンITソリューションズ実績／受注高・受注残高】

主要関係会社のキヤノンITソリューションズの売上は、対前年5%増の332億円となりました。営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、対前年1億円増加の41億円となりました。

受注高は、流通業向け及び製造業向けのSI案件の剥落があったものの、金融業向けのSI案件が好調に推移したことや、ビジネスPCの大型案件があったこと等により、対前年プラス1%となりました。なお、データセンター事業以外の受注高は、引き続き高水準を維持しており、半期での過去最高を更新しました。

また、受注残高については、金融業向けのSI案件が好調に推移したことや、ビジネスPCの大型案件があったものの、大型のデータセンター案件の売上への切替等により、対前年マイナス7%となりました。なお、データセンター事業以外の受注残高は好調に推移し、10%以上の増加となっております。



- ✓ 売上高は、ITソリューションが順調に推移したものの、キヤノン製品他が減少したことにより、前年並み
- ✓ 営業利益は、高付加価値なITソリューションの売上構成比増加に伴う荒利の増加等により、増益

(単位：億円)

	1Q実績		
	2023年	2024年	対前年
キヤノン製品他	409	399	△2%
ITソリューション	190	199	+5%
売上高計	598	598	△0%
営業利益	47	52	+10%
利益率	7.9%	8.7%	+0.8%

■ (ご参考) 主要関係会社実績

キヤノンシステムアンドサポート

	1Q実績		増減	
	2023年	2024年	金額	率
売上高	268	283	+15	+6%
営業利益	18	22	+5	+26%

9

9ページ目は、エリアセグメントのご説明です。

1Qの売上は、「ITソリューション」が順調に推移したものの、「キヤノン製品他」が減少したことにより、前年同期並みの598億円となりました。

営業利益は、高付加価値なITソリューションの売上構成比増加に伴う荒利の増加等により、対前年5億円増加の52億円となりました。

(キヤノン製品他)

「キヤノン製品他」については、前年同期の製品供給の回復により、販売台数が大幅に増加した反動で、オフィスMFP、レーザープリンターの台数は減少しました。

オフィスMFPの保守サービスについては、オフィスにおけるプリントボリュームが減少したことにより、売上は減少しました。

レーザープリンターカートリッジについては、前年同期に価格改定を見据えた駆け込み需要があり、その剥落により、売上は減少しました。

これらの結果、「キヤノン製品他」全体の売上は減少しました。

(ITソリューション)

「ITソリューション」については、Windows 10の延長サポート終了に伴うビジネスPCの入替が進んだことに加え、キヤノンシステムアンドサポートで、生産性向上に向けたデジタル化提案、法改正や税制改正に対応した提案、IT導入補助金の活用提案等を強化したことにより、基幹業務ソフトの販売や「まかせてIT DXシリーズ」が順調に推移しました。

これらの結果、「ITソリューション」全体の売上は、対前年プラス5%となりました。

【キヤノンシステムアンドサポート実績】

主要関係会社のキヤノンシステムアンドサポートの売上は、対前年6%増の283億円となりました。

営業利益は、先ほどご説明しました通り、ITソリューションが順調に推移したことにより、

売上の増加に伴い荒利が増加し、対前年5億円増加の22億円となりました。

- ✓ 売上高は、プロダクションプリンティング及びヘルスケアの増加により、増収
- ✓ 営業利益は、産業機器の売上の減少に伴う荒利の減少により、減益

(単位：億円)

	1Q実績		
	2023年	2024年	対前年
プロダクションプリンティング	21	23	+8%
産業機器	58	55	△6%
ヘルスケア	38	62	+64%
売上高計	117	140	+19%
営業利益	19	17	△9%
利益率	16.4%	12.5%	△3.9%

■ (ご参考) 主要関係会社実績  
 キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ

	1Q実績		増減	
	2023年	2024年	金額	率
売上高	20	21	+2	+8%
営業利益	1	1	△0	△35%

10

10ページ目は、プロフェッショナルセグメントのご説明です。

1Qの売上は、プロダクションプリンティング及びヘルスケアの増加により、対前年19%増の140億円となりました。

営業利益は、産業機器の減少に伴う荒利の減少により、対前年2億円減少の17億円となりました。

#### (プロダクションプリンティング)

プロダクションプリンティングについては、高速連帳プリンター案件の増加等により、売上は対前年でプラス8%となりました。

#### 【キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ実績】

主要関係会社であるキヤノンプロダクションプリンティングシステムズの売上は、対前年8%増の21億円となりました。営業利益は、ほぼ横這いの1億円となりました。

#### (産業機器)

産業機器については、前年同期に高額のサービス案件や検査計測装置等の案件が複数あり、それらの剥落により、売上は対前年でマイナス6%となりました。

#### (ヘルスケア)

ヘルスケアについては、前年同期にあった診療所向けオンライン資格確認システム案件や調剤薬局向け電子処方箋案件の剥落があったものの、病院向け大型案件を獲得したことにより、売上は対前年でプラス64%となりました。

# セグメント別 製品・サービス売上 第1四半期(1月～3月)

(単位：億円)

	コンシューマ		エンタープライズ		エリア		プロフェッショナル		その他		合計		構成比
	2023年 1Q	2024年 1Q	2023年 1Q	2024年 1Q	2023年 1Q	2024年 1Q	2023年 1Q	2024年 1Q	2023年 1Q	2024年 1Q	2023年 1Q	2024年 1Q	2024年 1Q
SIサービス	-	-	174	188	32	36	38	62	△6	△8	237	279	37%
(対前年)	-	-		+8%		+14%		+66%		-		+18%	
保守・運用サービス /アウトソーシング	-	-	117	145	26	28	3	3	△6	△6	140	171	22%
(対前年)	-	-		+24%		+9%		△1%		-		+22%	
ITプロダクト・システム販売	74	83	108	106	132	135	-	-	3	△13	317	310	41%
(対前年)		+11%		△2%		+2%		-		-		△2%	
ITソリューション合計	74	83	399	439	190	199	41	66	△10	△27	695	760	100%
(対前年)		+11%		+10%		+5%		+60%		-		+9%	
キヤノン製品他	252	219	147	151	409	399	76	74	△30	△30	854	812	
(対前年)		△13%		+2%		△2%		△3%		-		△5%	
合計	326	301	547	590	598	598	117	140	△40	△57	1,548	1,572	
(対前年)		△8%		+8%		△0%		+19%		-		+2%	

※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業、セグメント間取引消去を含んでおります。

11

11ページ目は、セグメント別の製品・サービスの売上です。  
ここでは、ITソリューションの1Qの実績についてご説明します。

「SIサービス」は、エンタープライズセグメントにおいて、金融業向け及び流通業向けのSI案件が好調に推移したことや、エリアセグメントで法改正や税制改正に対応した、基幹業務ソフトの販売や導入支援サービスが好調に推移したことにより、対前年プラス18%となりました。

「保守・運用サービス/アウトソーシング」は、T C Sのグループ入りに加え、エンタープライズセグメントでクラウドサービスが好調に推移したことや、エリアセグメントで「まかせてIT DXシリーズ」の保守が増加したこと等により、対前年プラス22%となりました。

「ITプロダクト・システム販売」は、コンシューマセグメントにおいて高性能PCやPC周辺機器の販売が増加したものの、エンタープライズセグメントにおいて、ビジネスPCが減少したことにより、対前年マイナス2%となりました。

これらの結果、グループITソリューション全体の売上は、対前年プラス9%となりました。

## 業績予想サマリー

(単位：億円)

	2024年 年間 (前回予想)	2024年 年間 (今回予想)	増減		2023年 年間 (実績)	前年比較	
			金額	率		金額	率
売上高	6,300	6,450	+150	+2%	6,095	+355	+6%
営業利益	(8.6%) 540	(8.4%) 540	(Δ0.2%) -	-	(8.6%) 525	(Δ0.2%) +15	+3%
経常利益	(8.7%) 550	(8.5%) 550	(Δ0.2%) -	-	(8.8%) 536	(Δ0.3%) +14	+3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	(6.0%) 375	(5.8%) 375	(Δ0.1%) -	-	(6.0%) 365	(Δ0.2%) +10	+3%

12

12ページ目は、業績予想サマリーです。

昨年の1Qに、レンズ交換式カメラで新製品発売による売上増加、オフィスMFPの供給回復による大幅な販売増、レーザープリンターカートリッジの価格改定前の駆け込み需要、等があり、2024年1Qは増収減益となりましたが、売上・利益ともに計画を上回る進捗となっています。

2Q以降は、企業の積極的なIT投資を中心とした設備投資が増加する等、国内の景気は緩やかな回復が続くことが見込まれます。

一方で、個人消費については、国内旅行の回復等は見られるものの、エネルギーコストや原材料価格の高騰に伴う物価上昇等により、持ち直しに足踏みが見られていることについては、十分に注視する必要があります。

当社では、引き続き、キヤノン製品事業については、更なる収益性の強化を図るとともに、成長事業と位置づけるITソリューション事業については、収益性の向上を伴った売上の拡大を図ってまいります。

3月29日には、当社の注力領域のBPO事業で、業種に特化したBPOサービスに強みを持つプリマジェストをグループに迎えました。

このような状況を踏まえ、本年度の業績に関して、売上高を150億円上方修正いたします。

営業利益については、プリマジェストのM&Aに係るのれんの償却費の発生等、マイナスの影響が出る見通しですが、1QのITソリューションを中心とした計画以上の進捗状況を踏まえ、前回計画から修正せず、4期連続の最高益更新を目指します。

なお、プリマジェストのグループ入りや、3月18日にリリースしておりますエーアンドエー株式会社の全株式譲渡に伴う、グループ再編の影響については現在精査中です。

# 業績予想 セグメント概要 前回予想比較

(単位：億円)

	2024年 年間 (前回予想)		2024年 年間 (今回予想)		前回予想比較		
	売上	営業 利益	売上	営業 利益	金額	売上 率	営業 利益
コンシューマ	1,393	137	1,393	137	-	-	-
エンタープライズ	2,312	205	2,312	205	-	-	-
エリア	2,350	183	2,350	183	-	-	-
プロフェッショナル	440	41	440	41	-	-	-
その他	△195	△26	△45	△26	+150	-	-
合計	6,300	540	6,450	540	+150	+2%	-

13ページ目は、セグメント別業績予想の前回比較です。

プリマジェストはBPOサービスを行っており、「その他」に区分しております。

「その他」は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各セグメントに含まれないBPO事業等の売上、シェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用、セグメント間取引消去等が含まれております。

# 業績予想 セグメント概要 前年比較

(単位：億円)

	2023年 年間 (実績)		2024年 年間 (予想)		前年比較		
	売上	営業 利益	売上	営業 利益	売上 金額	率	営業 利益
コンシューマ	1,389	141	1,393	137	+4	+0%	△4
エンタープライズ	2,203	197	2,312	205	+109	+5%	+8
エリア	2,297	175	2,350	183	+53	+2%	+8
プロフェッショナル	402	36	440	41	+38	+9%	+5
その他	△197	△24	△45	△26	+152	-	△2
合計	6,095	525	6,450	540	+355	+6%	+15

14ページ目は、セグメント別業績予想の前年比較です。

# 業績予想 セグメント概要

(単位：億円)

	2023年 1Q (実績)		2023年 2Q-4Q (実績)		2024年 1Q (実績)		2024年 2Q-4Q (計画)		増減 1Q		増減 2Q-4Q	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンシューマ	326	31	1,063	110	301	21	1,092	116	△25	△10	+28	+6
エンタープライズ	547	59	1,657	137	590	55	1,722	150	+44	△4	+65	+12
エリア	598	47	1,699	128	598	52	1,752	131	△1	+5	+53	+3
プロフェッショナル	117	19	285	17	140	17	300	24	+22	△2	+16	+7
その他	△40	△4	△157	△20	△57	△8	12	△18	△17	△4	+168	+1
合 計	1,548	153	4,546	372	1,572	138	4,878	402	+24	△15	+331	+30

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

15

15ページ目は、セグメント別の1Qの実績及び2Q以降の業績予想の前年比較となります。

セグメントごとの詳細については、この後ご説明致します。

(単位：億円)

## ■ コンシューマ

- ✓ 売上高は、レンズ交換式デジタルカメラやITプロダクトが順調に推移し、増収を見込む
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、増益を見込む

2023年 1Q (実績)		2023年 2Q-4Q (実績)		2024年 1Q (実績)		2024年 2Q-4Q (計画)		増減 1Q		増減 2Q-4Q	
売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
326	31	1,063	110	301	21	1,092	116	△25	△10	+28	+6

## ■ エンタープライズ

- ✓ 売上高は、キヤノン製品他が減少するものの、ITソリューションが好調に推移することにより増収を見込む
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、増益を見込む

2023年 1Q (実績)		2023年 2Q-4Q (実績)		2024年 1Q (実績)		2024年 2Q-4Q (計画)		増減 1Q		増減 2Q-4Q	
売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
547	59	1,657	137	590	55	1,722	150	+44	△4	+65	+12

16

まずは、コンシューマセグメントです。  
2Q以降は、増収増益を見込んでおります。

売上は3%増の1,092億円、営業利益は売上増加に伴う荒利の増加により、  
対前年6億円増の116億円を見込んでおります。

レンズ交換式カメラについては、1Qは前年同期の新製品発売の影響等で減少しましたが、2Q以降は底堅い  
需要を背景に、メーカーと連携した戦略を更に強化し、EOS Rシリーズへの移行を促進することで、  
カメラ本体の年間販売台数+1%の達成とRFレンズの拡販を進めてまいります。

インクジェットプリンター及びインクカートリッジについては、市場の縮小により、数量が減少するため、  
売上は減少する見込みです。

インクジェットプリンターは、引き続き高付加価値製品の拡販に注力することで収益性の向上を図ります。

加えて、レーザープリンター、ラージフォーマットプリンター、カードプリンター等幅広いビジネス用途の  
キヤノン製プリンターの販売を拡大することで、計画達成に努めてまいります。

ITプロダクトについては、高性能PCやPC周辺機器等が引き続き順調に推移し、売上は増加する見込みです。

次に、エンタープライズセグメントです。  
2Q以降は、増収増益を見込んでおります。

売上は対前年4%増の1,722億円、営業利益は売上増加に伴う荒利の増加により、  
対前年12億円増の150億円を見込んでおります。

「キヤノン製品他」については、大手企業において、拠点統廃合に伴う機器の集約やオフィスにおける  
プリントボリューム減少が想定されるものの、準大手・中堅企業のお客さまにおいて、業務プロセスの改革提案を  
更に強化し、入出力機器を含めたシステム導入案件を増加させることで、収益性の向上に取り組んでまいります。

「ITソリューション」については、製造業向けSI案件やEdgeソリューションの映像ソリューション、  
デジタルドキュメントサービス等が好調に推移することに加え、T C Sのグループ入りにより、  
売上は大幅に増加する見込みです。



(単位：億円)

## ■ エリア

- ✓ 売上高は、ITソリューションが好調に推移することにより、増収を見込む
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、増益を見込む

2023年 1Q (実績)		2023年 2Q-4Q (実績)		2024年 1Q (実績)		2024年 2Q-4Q (計画)		増減 1Q		増減 2Q-4Q	
売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
598	47	1,699	128	598	52	1,752	131	△1	+5	+53	+3

## ■ プロフェッショナル

- ✓ 売上高は、主に産業機器の売上が増加することにより、増収を見込む
- ✓ 営業利益は、主に産業機器の売上増加に伴う荒利の増加により、増益を見込む

2023年 1Q (実績)		2023年 2Q-4Q (実績)		2024年 1Q (実績)		2024年 2Q-4Q (計画)		増減 1Q		増減 2Q-4Q	
売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
117	19	285	17	140	17	300	24	+22	△2	+16	+7

17

次に、エリアセグメントです。  
2Q以降は増収増益を見込んでおります。

売上は対前年3%増の1,752億円、営業利益は売上増加に伴う荒利の増加により、対前年3億円増の131億円を見込んでおります。

「キヤノン製品他」については、使用期間が長期化しているお客さまの入れ替えや、法改正や税制改正に対応した提案活動を積極的に進めることで、売上は増加する見込みです。

「ITソリューション」については、Windows10サポート終了に伴いビジネスPCの販売が順調に推移することや、キヤノンシステムアンドサポートで、中小企業のIT環境をトータルで支援する「まかせてIT DXシリーズ」が引き続き順調に推移することに加え、キヤノンマーケティングジャパンで、ウイルス対策ソフト「ESET」やIT支援クラウドサービス「HOME」等が順調に推移することにより、売上は増加する見込みです。

次に、プロフェッショナルセグメントです。  
2Q以降は、増収増益を見込んでおります。

売上は対前年5%増の300億円、営業利益は主に産業機器の売上増加に伴う荒利の増加により、対前年7億円増の24億円を見込んでおります。

プロダクションプリンティングについては、高速プリンター本体やPOPビジネス等が順調に推移することにより、売上は増加する見込みです。

産業機器については、車載向け半導体の需要には一服感が見られるものの、パワー半導体において底堅い需要が継続しており、半導体製造関連装置が好調に推移することにより、売上は増加する見込みです。

ヘルスケアについては、1Qに案件が集中し、大幅な増収となりました。2Q以降も昨年事業移管を受けたキヤノンメディカルシステムズとの統合の効果等により、年間では2桁の増収となる見込みです。

# 【補足資料】主要製品売上・台数

【補足資料】2024年1Q主要製品売上・台数 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

キヤノン製品部  
単位：億円

製品部	2024年 第1四半期					2023年 第1四半期					前年同四半期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	当季	1Q	2Q	3Q	4Q	当季	
ビジネス機器の売上	(台数)	+20%	+20%	+15%	+2%	+8%	-3%	+1%	+1%	+1%	-1%
ビジネスプリンター	(台数)	+10%	+12%	+13%	+13%	+10%	-8%	+2%	+2%	+2%	+1%
ビジネスデジタルカメラ	(台数)	+6%	+3%	+2%	-7%	-5%	+5%	+2%	+2%	+2%	+4%

製品部	2024年 第2四半期					2024年 第3四半期					前年同四半期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	当季	1Q	2Q	3Q	4Q	当季	
イメージングソリューション	(台数)	+31%	+6%	+12%	+12%	+2%	+3%	+8%	+8%	+8%	+8%
保守サービス	(台数)	+3%	+3%	+2%	+3%	+3%	+2%	+1%	+1%	+1%	+1%
レーザープリンター	(台数)	+2%	+10%	+8%	+2%	+6%	+2%	+2%	+2%	+2%	+2%
ビジネスデジタルカメラ	(台数)	+3%	+3%	+9%	+6%	+4%	+3%	+2%	+2%	+2%	+2%

注：プロダクションプリンター、複合機、デジタルカメラ

ITソリューション

製品部	2024年 第1四半期					2024年 第2四半期					前年同四半期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	当季	1Q	2Q	3Q	4Q	当季	
保守サービス	(台数)	+12%	+21%	+20%	+20%	+1%	+10%	+10%	+10%	+10%	+10%
保守・運用サービス/ソリューション	(台数)	+12%	+4%	+4%	+15%	+9%	+22%	+44%	+10%	+10%	+10%
ITソリューション/システム販売	(台数)	+9%	+10%	+9%	+10%	+9%	+2%	+2%	+2%	+2%	+2%
ネットワークカメラ	(台数)	+11%	+11%	+23%	+3%	+11%	+6%	+34%	+34%	+34%	+34%

※2024年1Q、一時的な急増要因があり、2023年10月22日～2024年1月15日の期間に集中しています。

プロダクションプリンター

製品部	2024年 第1四半期					2024年 第2四半期					前年同四半期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	当季	1Q	2Q	3Q	4Q	当季	
プロダクションプリンティング	(台数)	+13%	+10%	+13%	+8%	+2%	+6%	+7%	+7%	+7%	+7%
複合機	(台数)	+16%	+49%	+45%	+5%	+30%	+6%	+10%	+10%	+10%	+10%
複合機/システム販売	(台数)	+11%	+100%	+101%	+34%	+33%	+64%	+10%	+10%	+10%	+10%

※本資料に記載している数値は概数であり、四捨五入や小数点の繰り上げが行われている場合があります。また、各製品の売上・台数は、本資料に記載の数値とは異なる場合があります。

6/6/24 株式会社キヤノンマーケティングジャパン

当社ホームページに掲載されております  
「2024年12月期第1四半期 補足資料 PDF」を  
ご覧ください。

- ・掲載URL  
<https://corporate.canon.jp/ir>  
(当社トップページ>企業情報>投資家向け情報>IR資料>決算説明会資料)

18ページ目は、補足資料として掲載しております「主要製品売上・台数」表についてご説明致します。  
ホームページに掲載されておりますので、お手元にご用意頂ければと思います。

1Qの実績については、セグメント情報でお伝えしている通りです。  
ここでは、セグメント情報でお伝えしていない、「商業印刷」「ネットワークカメラ」の実績についてご説明致します。

まずは、「商業印刷」です。  
「ビジネス機器」の一番下の行に、プロフェッショナルセグメントのプロダクションプリンティングに、  
他セグメントの売上となっているプロダクションプリンティングビジネスを加えたグループトータルの「商業印刷」の  
増減を記載しております。  
「商業印刷」は、高速連帳プリンター案件が増加したことに加え、imagePRESS C265をはじめとする  
プロダクションカット紙プリンターの売上が増加したことにより、対前年プラス8%となりました。

次に、「ネットワークカメラ」です。  
ITソリューションの「ITプロダクト・システム販売」の下に、グループトータルの「ネットワークカメラ」の売上の増減を  
記載しております。  
「ネットワークカメラ」は、防犯や省人化のニーズが高まっており、エンタープライズセグメントにおいて学習塾向け  
大型案件を獲得したことや、エリアセグメントにおいて中小企業向けクラウド型録画サービス「VisualStage」等  
の映像基盤案件やAXIS等の製品販売が堅調に推移したことにより、売上は対前年プラス6%となりました。

続いて、2024年の見通しについて、前回公表値からの変更箇所をご説明致します。

インクジェットプリンターにつきましては、想定以上に市場の縮小が進んでいるため、前回公表値マイナス1%を  
マイナス5%へ変更致します。また、インクカートリッジにつきましても、プリントボリュームの減少が進むことを  
想定し、マイナス4%からマイナス7%へ修正しております。

保守・運用サービス/アウトソーシングは、プリマジェストのグループ入りに伴う売上の増加により、  
見通しをプラス16%からプラス44%に変更致しました。

他の製品・サービスについては、変更ございません。

## 株式会社プリマジェストのグループ入りについて

- ✓ 3月29日に株式会社プリマジェストが当社グループ入り。
- ✓ 株式会社プリマジェストの持つ金融業界に対する深い業務知見、顧客基盤と、キヤノンMJグループの持つ幅広い業種にわたる顧客基盤や技術力を組み合わせることで、お客さまの想いに寄り添ったビジネスプロセスの改革提案を加速させ、BPO事業の更なる拡大を図る。

商号	株式会社プリマジェスト	
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 稲垣 秀秋	
設立	1968年7月	
売上高（単体）	176億円	（2023年12月期）
従業員数（単体）	2,428名（内社員数572名）	（2023年12月期）
事業内容	高速スキャナー、先進IT、BPO等を活用した顧客業務の全自動化・プロセス最適化・DX化の支援	
子会社	株式会社dcWORKS、株式会社リープ等	

株式会社プリマジェストについてご説明致します。

プリマジェストは、本年3月29日から当社グループ入りをしました。  
設立は1968年、昨年の売上高は176億円、従業員数は約2,400名です。

プリマジェストは、大手金融機関等のお客さまを中心に、業務オペレーションの最適化支援を行ってきました。これによって、業界固有のビジネスプロセスを読み解き、実現性の高い業務改革を支援する知見と、お客さまとの強固な信頼関係を有しています。

今後は、プリマジェストの持つ、金融業界に対する深い業務知見、顧客基盤と、キヤノンMJグループの持つ、幅広い業種にわたる顧客基盤や技術力を組み合わせることで、お客さまの想いに寄り添ったビジネスプロセスの改革提案を加速させ、BPO事業の更なる拡大を図ります。



キヤノンマーケティングジャパングループ

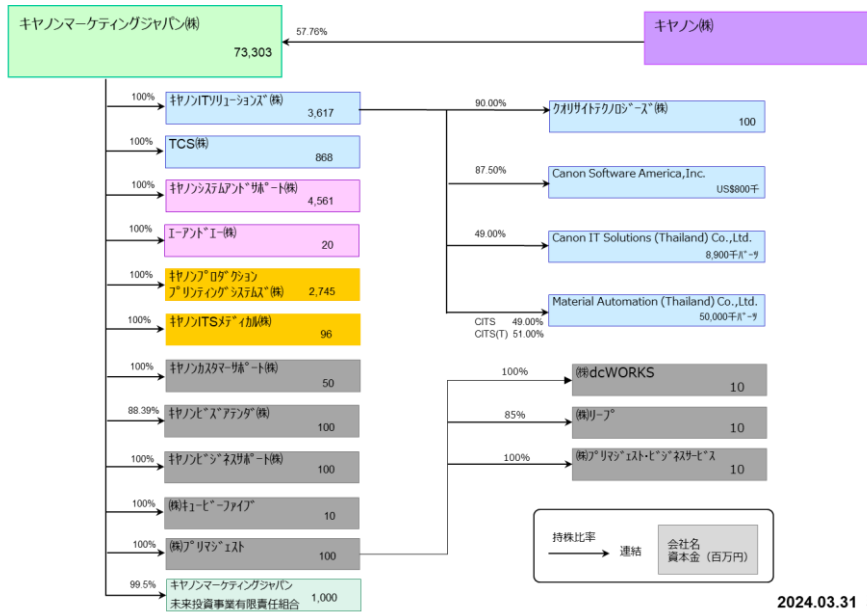
今回のプリマジェストのグループ入りにより、2025年の目標に掲げているITソリューションの売上3,000億円は1年前倒しで、年内での確実な達成が見えてまいりました。

また、2024年の売上の見通しは6,450億円と致しましたが、好調なITソリューションの拡大を加速させることにより、2025年の売上目標6,500億円の1年前倒しの達成を目指してまいります。

以上が、2024年第1四半期決算と業績予想に関するご説明となります。  
ご清聴、有り難うございました。

## 參考資料

# 関係会社出資関係図



2024.03.31 現在

# 販管費の内訳 第1四半期(1月～3月)

(単位：億円)

	2023年 1Q	2024年 1Q	増減
広告宣伝費	10	10	△0
販売促進費	8	6	△2
保証費	7	7	△0
その他直接費	44	43	△0
人件費	227	224	△4
拠点費用	20	19	△1
IT費用	22	27	+5
のれん等償却費	0	2	+1
その他販売費	31	37	+6
合計	369	375	+6

# 営業外収支の内訳

(単位：億円)

	2023年 1Q	2024年 1Q	増減 1Q
受取利息	1	1	+0
受取配当金	0	0	+0
為替差益	0	0	+0
その他	1	1	+0
営業外収益 計	2	3	+0
支払利息	0	0	△0
投資事業組合運用損	0	0	△0
その他	0	1	+0
営業外費用 計	1	1	+0



## 特別損益の内訳

(単位：億円)

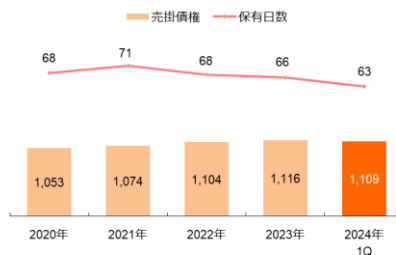
	2023年 1Q	2024年 1Q	増減 1Q
固定資産売却益	0	0	+0
特別収益 計	0	0	+0
固定資産除売却損	0	0	+0
関係会社株式売却損	2	-	△2
その他	-	0	+0
特別損失 計	2	0	△2

# 貸借対照表

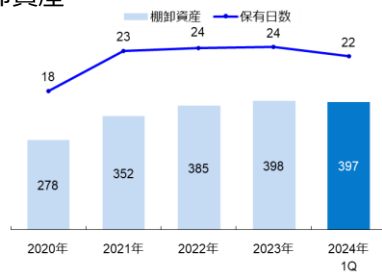
	2023年 12月	2024年 3月	増減
資産	5,574	5,639	+66
流動資産	4,186	3,884	△302
金融資産	897	994	+97
売掛債権	1,116	1,109	△8
棚卸資産	398	397	△2
その他	1,774	1,385	△389
固定資産	1,388	1,755	+367
有形固定資産	850	880	+30
無形固定資産	142	459	+317
投資その他	395	416	+20
負債	1,219	1,276	+58
流動負債	1,106	1,148	+42
買掛債務	456	477	+21
その他	650	671	+21
固定負債	113	129	+16
純資産	4,355	4,363	+8
株主資本	4,108	4,113	+4
(自己株式)	△21	△21	△0
その他の包括利益累計額	239	242	+3
新株予約権	1	1	+0
非支配株主持分	7	8	+0
株主資本比率	78%	77%	△1%

## ■ 売掛債権

(単位：億円)

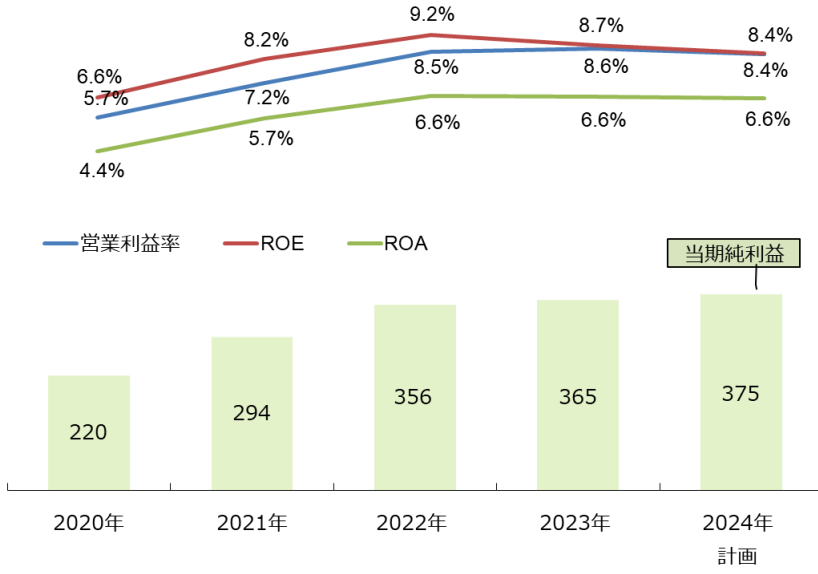


## ■ 棚卸資産



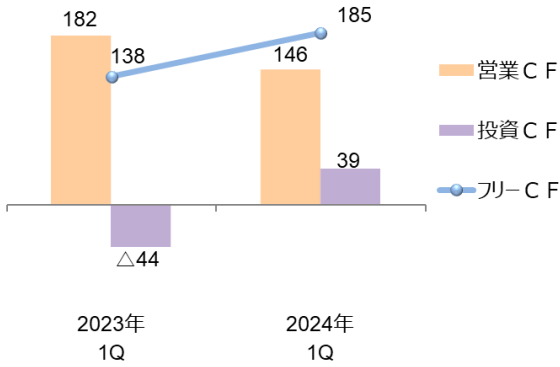
# 財務指標推移 営業利益率／ROA／ROE

(単位：億円)



# キャッシュ・フロー／設備投資・減価償却

## ■ キャッシュ・フロー



## ■ 設備投資

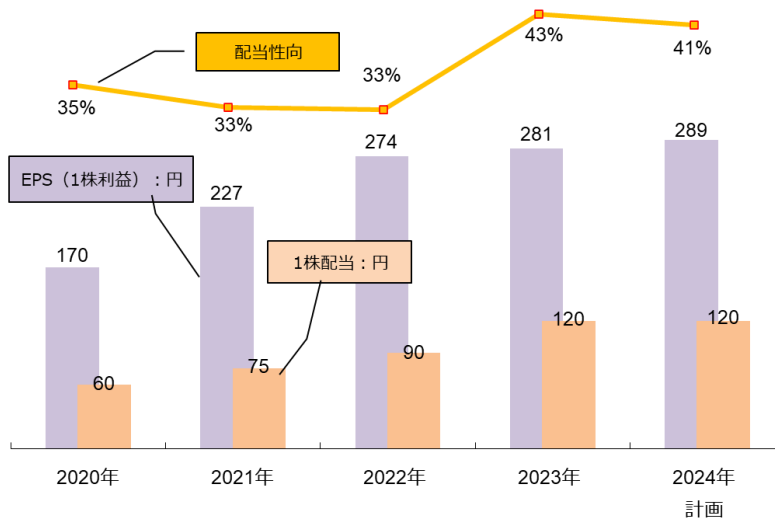
(単位：億円)

	1Q 実績	2Q-4Q 計画	年間
2023年 実績	24	70	94
2024年 計画	36	122	158

## ■ 減価償却

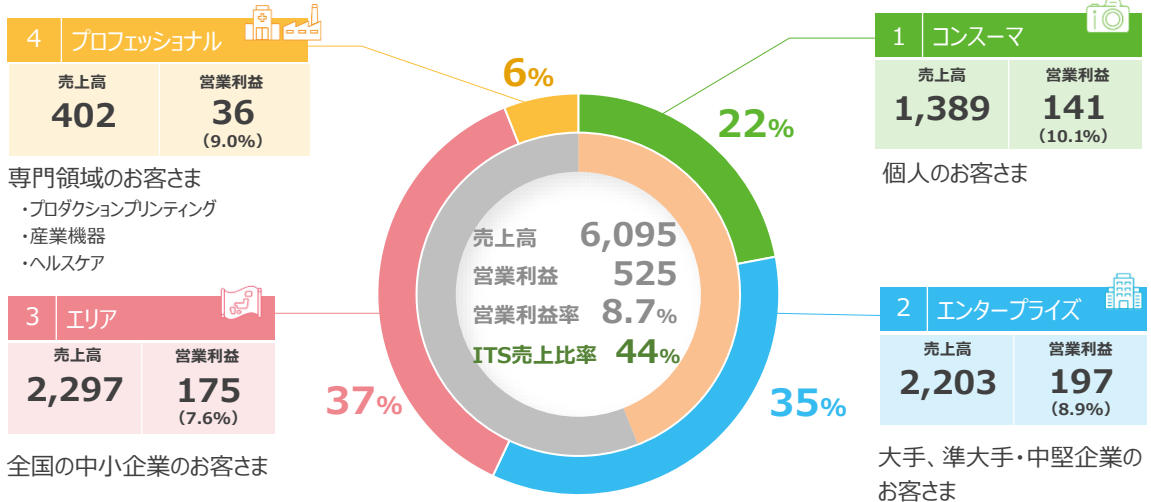
	1Q 実績	2Q-4Q 計画	年間
2023年 実績	24	74	97
2024年 計画	25	78	103

# 財務指標推移 配当性向／EPS／配当



# セグメント別売上構成（2023年度）

(単位：億円)



※ 2024年より、「エリア」セグメントの一部販売チャネルの組織を、「コンシューマ」セグメントへ移管しております。これに伴い、各セグメント間で2023年実績の組替を行っております  
 ※ 売上構成比率は各セグメント別売上高の単純合計額をもとに算出しています  
 ※ 上記以外に、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等として、その他売上△197億円、その他営業利益△24億円があります

## 1 コンシューマ

キヤノンの祖業であるカメラをはじめとするイメージング製品群・インクジェットプリンター等のキヤノン製品とキヤノンブランド以外のコンシューマユース向けプロダクトを、量販店やオンラインショップ等を通じて個人・法人のお客さまに販売しています。

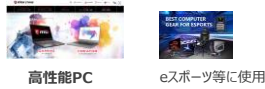
### カメラ事業



### インクジェットプリンター事業



### ITプロダクト事業



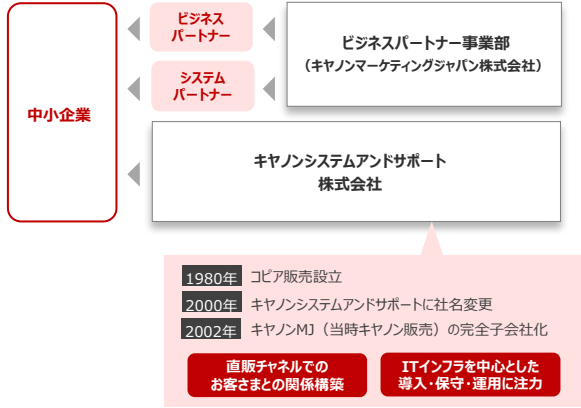
## 2 エンタープライズ

大手企業、準大手・中堅企業のお客さま向けに、業種・業態ごとに異なる経営課題を解決するためのキヤノン製品やITソリューションを直接販売しています。大手企業にはMA事業部、準大手・中堅企業にはGBソリューション事業部、キヤノンITソリューションズがその両方を担当しています。









## 3 エリア

ビジネスパートナー、システムパートナーによる**間接販売**、キヤノンシステムアンドサポートによる**直接販売**からなる多様なチャネルを最大限に活かし、日本全国の**中小企業のお客さま**向けに、キヤノン製品やITソリューションを提供しています。




## 4 プロフェッショナル

プロダクションプリンティング、産業機器、ヘルスケアといった、**各専門領域のお客さま**を対象とした製品やソリューションを提供しています。

産業機器		プロダクションプリンティング	
半導体製造関連	非半導体関連	プロダクションプリンター	
 プラズマアッシング装置	 X線分析装置	 ProStream カラーIJプリンター	 MJP203XR モノクロIJプリンター
 クラスター式スパッタリング装置	 産業用3Dプリンター	ソフトウェアサービス	
		ワークフローソリューション	Connect Works Manager
		POPシステム	図面管理システム
		ヘルスケア	
		医用画像サービス	電子カルテ

※主に海外から仕入れて日本国内のお客さまにローカライズして販売、設置・保守まで行う





# エンタープライズセグメント・エリアセグメント

エンタープライズセグメント、エリアセグメントはそれぞれキヤノン製品及びITソリューションを取り扱いますが、お客さまの規模が異なります。



※ITO…ITアウトソーシングサービス

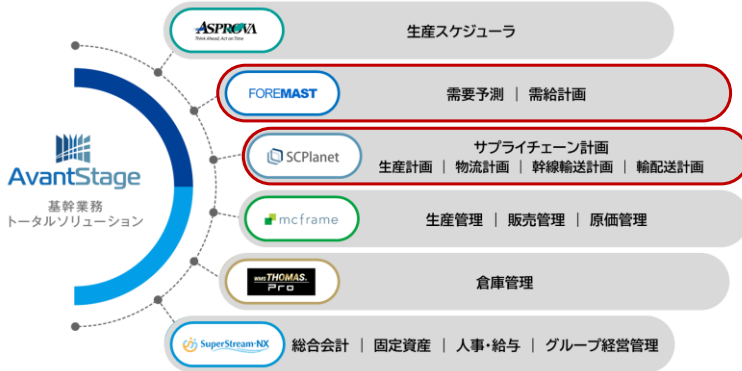
課題

VUCA時代におけるサプライチェーン  
最適化・強靱化



数理技術を活用した  
SCM/ERP 基幹業務トータルソリューションの提供

※ SCM…サプライチェーン・マネジメント  
ERP…エンタープライズ・リソース・プランニング



AvantStage導入企業様例

- 味の素株式会社様
- 株式会社アルビオン様
- エレコム株式会社様
- サッポロホールディングス株式会社様
- マルハニチロ株式会社様
- 三菱ケミカル株式会社様

※ソリューション群から、各社最適なものを選択してご導入

詳しくはこちら ▶

<https://www.canon-its.co.jp/solution/erp/>  
<https://www.canon-its.co.jp/solution/scm/>

課題

労働人口の減少  
情報資産の保護



生産性向上やセキュリティ対策に最適な  
ICTの選定・導入・運用をトータルで支援

NEW ■ 経営支援サービス

ITコーディネイトサービス

法改正・制度変更対応

NEW ■ 教育支援サービス

営業戦略策定支援サービス  
SFA支援サービス

スキル向上支援サービス  
研修支援サービス

■ 安心バック

セキュリティ対策

データ保護

まかせてIT DXシリーズ

情報漏えい対策

PC

■ 保守運用サービス

PC

運用支援サービス

ネットワーク

運用支援サービス

サーバー

運用支援サービス

アプリケーション

運用支援サービス

■ 業種別サービス

NEW

介護ソリューション (次項参照)

業種A

業種B

...

2023年  
株式会社ケアコネクトジャパンと資本業務提携

**Canon**

キヤノンマーケティングジャパングループ